

てくれよ。バイオエシックスの時代になったのでは  
なくて、私がバイオエシックスの時代をつくったの  
だよ」と言いました。新しい分野というのは待って  
いても絶対に来ません。我々がつくらなければいけ  
ないのですから。社会変化も待っていたって、黙っ  
ていて、世の中が変わったということはないですよ  
ね。やっぱり態度・行動で示さなければいけない。  
それで、私の歌と結びつくんです。

武見さんは、大変に強く反対されたわけですが、  
でも、病気になられて入院されました。そして退院  
されるときに、それは新聞記事に残っていますが、  
記者たちに言った第一声は、「日本の病院に入ったの  
は本当に久しぶりで、日本の病院がこんなにひどい  
ところだとは思わなかった」と。そして「これから  
の病院は患者中心でなくてはいけない」と言ったん  
です。ついこの間まで、医者中心の医療と言ってい  
た人が、患者中心でなくてはいけないと、がらっと  
変わった。すごくいいことだと思うんです。

バイオエシックスの基本倫理の一つは、自己決定  
ということなんです。インフォームド・コンセント  
のことを、上手にわかりやすく医師が説明すること

◆ 特別寄稿 ◆

日本を変える

—日本型情報スーパーハイウェイ構想と国土維新計画

瀬戸 健一郎  
(草加市議会議員)

グローバル化した世界の中で生き残るためには、「グロ  
ーカル」な発想としくみが必要であり、国家という垣根  
を、いかに低く、シームレスにしていくことができるか  
という問題を解決していかなければなりません。

インターネットで世界中がつながり、世界中の人とモ  
ノが早く安全に行き交うことができる時代であればこ  
そ、「情報」と「物流」を制することが国家の浮沈と国民  
の幸福を左右する重要な課題なのではないでしょうか。

そこで、日本国内の情報インフラを整備推進し、世界  
への発信力を向上させる「日本型情報スーパーハイウェ  
イ構想」と、東京もしくは大阪に人とモノが半日で往復  
できる「国土維新計画」を私は提案します。

だという、ただレトリックみたいに思っている人が  
多いんですが、大前提として「真実を伝える」とい  
うことがあって、それに伴って処置を言う。そして、  
次に処置の選択肢を言うわけです。選択肢をふまえて  
成功率、危険率、リスクもちゃんと伝える。やら  
ない場合にはどうなるのかということもちゃんと言  
う。最後にそれをわかりやすい言葉で、専門用語を  
使わないで患者に説明して、納得しているかどうか  
を確認するところまでやるわけです。ですから、  
今までと基本的に違います。

バイオエシックスというのは、命の始まる前から  
命の質の問題、命のすべての問題に、いろんな学問  
が対等な形で関わり合い、未来を展望してつくり出  
していこうという、そういう新しい学問分野なん  
です。ですから専門家の学問ではないんです。我々が  
つくり出していく学問です。新しい時代の、新しい  
生き方を私たちがつくり出していくというのがバイ  
オエシックスです。一人一人が、命の始まりや、命  
の終わりをこれから考えていく時代が来たというこ  
とだと思えます。

(了)

■日本型情報スーパーハイウェイ構想

①すべての国民の情報アクセスを平準化

大都市周辺自治体のみならず、地方の山村や農村、全  
国すべての世帯に光ファイバーによる高速通信回線を普  
及させ、TV電話のような新しい情報コミュニケーション  
機器を介して、医療過疎地の独居高齢者が自宅に居な  
がらにして医師の診断を受けたり、視聴者参加型プログ  
ラムに参加したり、さらには国や地域の課題解決のため  
のデイスカッションやアンケートに参加するなど、すべ  
ての国民の情報アクセスを平準化することを提案します。

これを実現するために、国土全域における情報のアク  
セシビリティを充足する情報インフラを整備することが  
「日本型情報スーパーハイウェイ構想」のハード面の基  
本ビジョンであり、日本全世界に普及する新しいコミュ  
ニティ参加ツールとして、これまでの電話やテレビのよ  
うに、だれもがストレスなく操作できる汎用性の高い双  
方向のハイビジョン情報伝達ツールの研究開発を助成  
し、独居高齢者も孤立させない新しい社会参加モデルを  
めざすべきと考えます。

このシステムを通じて、将来は選挙での投票はもとよ  
り、直接民主制に近い住民投票や住民意向調査などが物  
理的に容易となり、「eデモクラシー」が実現できること

を期待します。IT分野を取り入れた日本型デモクラシーを建て上げていくことは世界にも大きく貢献することになるだろうと考えます。

### ②すべての国民が商品出品者になれる

高級料亭の料理に添えられる草木、草花、葉っぱを採取して販売する山村があるように、日本の地方の農家や町工場が自慢の作物や製品を世界に販売するために必要な情報発信力を情報インフラが可能にします。ポータルサイトの企画運営、多言語サポートを含む情報発信のためのサポート、電子決済システムなど、すべての国民が商品出品者になれる新しい公共サービスを提案します。

小さな農家の高級果物や町工場の高精度加工品など、高品質な作物や製品をウェブ上に直結させることが「日本型情報スーパーハイウェイ構想」のソフト面の基本ビジョンです。地方に潜在している、これらの「ニッポンの底力」を開拓し、世界市場に情報発信するサポート機能を地方自治体が担うことで、地方が活性化し、日本全体が元気になるだろうと考えます。

### ■国土維新計画

#### ①二つの国際ハブ空港の整備

国内外に同時に向けた本格的なハブ空港がないことが

リニアモーターの路線計画は、東京国際空港（羽田）

から比較的距離のある新東京国際空港（成田）への延伸を含め検討する必要があると思いますが、基本的に東京—大阪の二つのハブ機能（心臓）を結ぶ大動脈としての機能として位置付けるべきであり、国土維新計画は、日本列島全体として世界のハブ機能を有機的に担うことをめざすべきであると考えます。

#### ③整備新幹線計画と高速自動車国道計画の検証と推進

東京—大阪二極化に伴う均衡ある国土の開発を推進するため、これまでの整備新幹線計画と高速自動車国道計画の戦略的な見直しが必要だと考えます。さらに平行在来線を含む軌道交通網と一般国道を含む道路網をこれらと有機的に接続し、全国どこからでも東京もしくは大阪と半日で往復できる陸路を確保し、地方都市間は空路で結ぶことが国土維新計画のもうひとつの課題です。

国土維新計画のような国家プロジェクトは国民的なコンセンサス形成を図りながら推進することが必要であり、環境アセスメントが重要です。さらに、このプロジェクトは、全国を網羅した毛細血管としての機能を担う地方道路の整備事業と同時進行することが望ましく、この分野についての都道府県や市町村の権限を強化し、国と地方の財政構造を抜本的に見直し、交付金制度に代る

将来の日本を国際社会の中で空洞化させる大きな要因になることが懸念されます。日本を経由すれば世界中の都市にアクセスできるといことが、日本を世界の中心に据える物理的な条件であることは言うまでもありません。東京国際空港と関西国際空港の拡張による二つの国際ハブ空港の整備は最大級の国家プロジェクトです。

仮称「大阪都法」という地方自治法の改正によって、東京一極集中が東京—大阪二極化にむかう可能性が現実的に動き出そうとしています。二つの国際空港をハブ空港化することで、台風襲来時にも日本の空の玄関の一方は閉鎖されることはなくなり、日本を経由する国際便の大幅な増便によって、新東京国際空港（成田）の機能が減少することもないだろうと考えます。

#### ②リニアモーターによる新たな高速軌道交通路の確保

東京国際空港と関西国際空港の国際ハブ空港化によって、日本への世界からの人とモノの流れが拡大します。本来、ハブ空港は国内外の空路を接続するものですが、東京—大阪間の人とモノの移動はすでに国内最大規模であり、距離的にも比較的近い。そのため、現在でも空路と新幹線が競合する区間です。これがリニアモーターで結ばれば、移動時間は一時間圏内となり、東京—大阪の二極が陸路でも有機的に結ばれることとなります。

新しい地方間財政格差の調整制度も検討することが不可欠であると考えます。

### ■日本を変える

本稿で提案する「日本型情報スーパーハイウェイ構想」と「国土維新計画」を推進することによって、大規模な内需拡大が実現し、大きな景気浮揚効果も生み出すこととなります。これまでの公共事業よりも明確なビジョンと日本再生に向けた投資的な事業であることから、日本は新たな国家モデルを世界に示すことが期待されます。さらにこのプロジェクトを推進することによって、国と地方の役割分担の明確化と財源配分の抜本的な見直しが迫られ、国税と地方税の税源区分や課税方式の多様化を含む大きな税制改正と意思決定システムのIT化を含む国と地方の統治機構の改革が実現することでしょう。

「日本を変える」—これらのプロジェクトを推進するプロセスの中で、日本人は日本型デモクラシーを確立していくこととなり、個人が活かされ、地域コミュニティや国家との関係が明確になり、自由と参加の有効感覚が実感できる土壌を完成させることができると信じます。

日本全国に「だれもが幸せなまち」を実現させていきたいと希望します。

# 『世界と議会』

(冬号) 目次

罌堂言行録 ..... (2)

## 特集：日本政治の課題と生命倫理

罌堂政経懇話会

「日本政治の課題と展望」..... 嶋下一郎 (4)  
(衆議院議員)

罌堂政経懇話会

「生命倫理の現在と未来」..... 木村利人 (14)  
(早稲田大学名誉教授)

## 特別寄稿

日本を変える

—日本型情報スーパーハイウェイ構想と国土維新計画..... 瀬戸健一郎 (25)  
(草加市議会議員)

「尾崎罌堂ワシントン桜寄贈百年記念フォーラム・  
東北復興支援チャリティー音楽会」の開催..... (28)

## IPSJ

モルヒネは痛みを殺すが、その値段は患者を殺す (ジンバブエ)..... (34)

春秋雑感..... 原不二子 (37)

財団だより..... (38)

# わが遺言

『わが遺言』は、尾崎行雄が1951年(昭和26年)、91歳の時に著したものです。本著は、罌堂の理念の集大成ともいべきもので、世界連邦構想、民主主義のあり方、日本及び日本人に求められる価値・理念などについて述べています。2004年、尾崎行雄没後五十年を記念して復刻されました。

## 目次

### 第一部 世界と日本

1. 激動する世界と日本の運命
2. 世界連邦建設の提唱

### 第二部 日本改造の方途

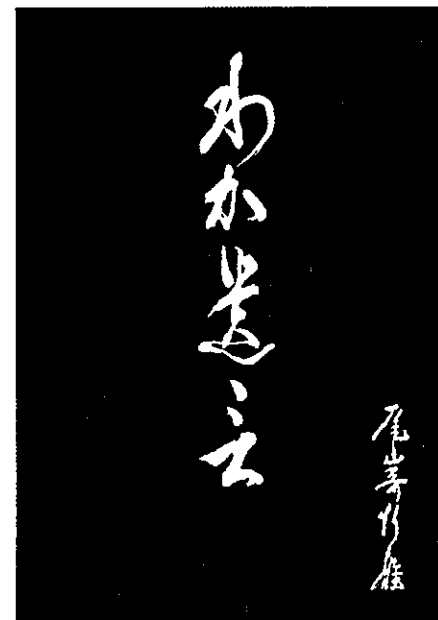
1. 民主教育のあり方
2. 日本語改良の課題
3. 日本の生きる道
4. 民主政治断想

### 第三部 命に代えて

1. 日本の進路を憂う
2. 政府・政党・国民に与う
3. 解散権の所在を質す

定価 2,000円(税込)

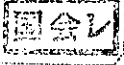
四六判 288頁



ご注文・お問い合わせ先

(一財)尾崎行雄記念財団

TEL:03-3581-1778/FAX:03-3581-1856



World  
and  
Parliament

尾崎行雄記念財団  
www.ozakiyukio.or.jp

2012年度 冬号



# 世界と議会

## 特集：日本政治の課題と生命倫理

琴堂政経懇話会  
「日本政治の課題と展望」／鴨下 一郎

琴堂政経懇話会  
「生命倫理の現在と未来」／木村 利人

特別寄稿  
日本を変える  
—日本型情報スーパーハイウェイ構想と国土維新計画／瀬戸 健一郎

「尾崎琴堂ワシントン桜寄贈百年記念フォーラム・  
東北復興支援チャリティー音楽会」の開催

IPSJ  
モルヒネは痛みを殺すが、  
その値段は患者を殺す(ジンバブエ)

